

Ⅰ 「生徒による授業評価」報告書について

- 全県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）における12月1日から1月15日までの「生徒による授業評価」の結果、「生徒による授業評価」に関わる取組及び授業改善に向けた取組などについて集計・分析した。
- 令和2年度の「生徒による授業評価」の評価結果の回答総数は次のとおりである（第1表、第2表）。

第1表 共通教科回答総数

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報
146,250	95,831	45,647	123,711	126,834	165,643	50,981	169,303	45,757	34,371

第2表 専門教科回答総数

農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語
8,203	27,862	10,238	928	3,537	631	1,057	2,929	656	3,376	723	1,422	2,305

- 令和元年度から、高等学校学習指導要領の改訂等に対応するため、すべての質問項目を改訂した（第3表）。

第3表 「生徒による授業評価」の質問項目（共通小項目）

大項目	共通小項目（標準例）		項目の趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとまり）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとまり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた	より高次な学びの構築に関する項目

- 学校で取り組んでいる研究の成果指標として活用したり、生徒の実態に即した項目を設定したりするため、7項目の共通小項目に加えて、さらに学校独自の小項目を設定することができる。各学校で独自の小項目を設定する際の参考のため、学校独自の小項目の例を掲載する。

- 論理的思考力が育まれる学習活動や学習機会がある
- 情報を収集し、活用する能力を育てる学習活動や学習機会がある
- 協働的な学習活動や学習機会がある
- 読解力：情報（文章、図、グラフ、表など）を正確に読み取る力が身に付いた
- 批判的思考力：情報の事実と意見を区別し、根拠に基づいて自らの意見を考える力が身に付いた
- 表現力：情報を整理し、他者に伝える力が身に付いた
- 授業に対して意欲的に取り組んだ
- 授業への要望（記述）

2 集計・分析の結果

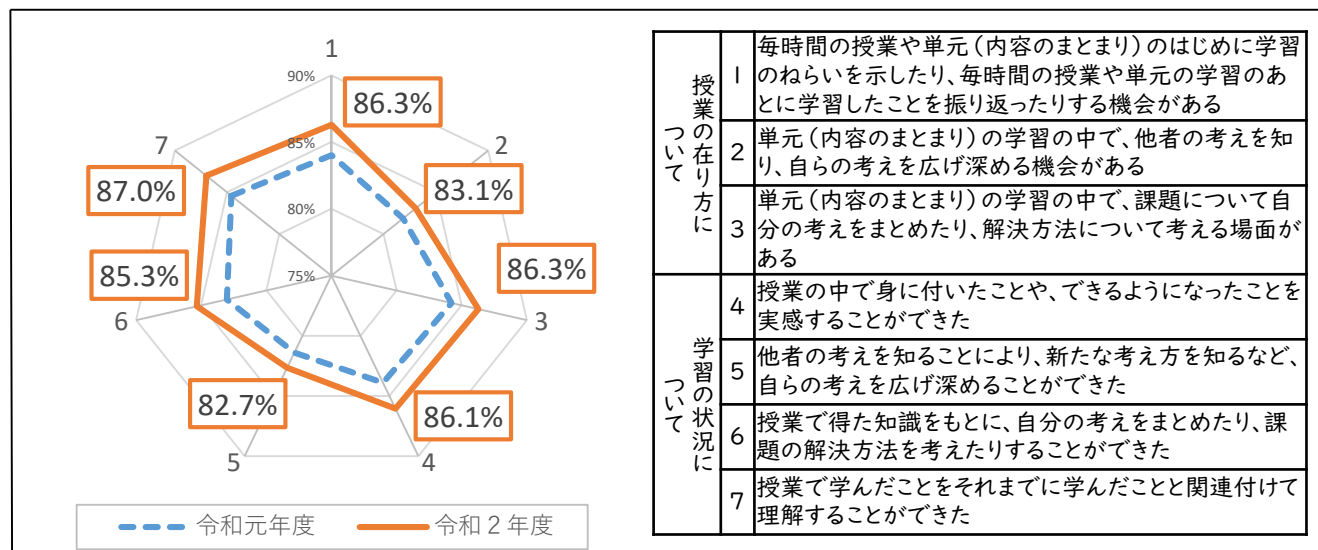
(1) 共通教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答(評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」)をした割合を、共通小項目ごとに示した(第4表)。

第4表 共通教科の集計結果 (単位は%、小数第2位を四捨五入)

共通小項目	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	全体
1	86.1	86.4	86.7	85.5	85.5	87.7	87.2	87.0	83.6	84.3	86.3
2	85.8	79.8	84.7	80.9	80.0	84.1	83.7	85.6	83.0	79.7	83.1
3	87.6	83.3	86.2	86.7	85.0	87.1	86.6	87.2	85.2	85.4	86.3
4	84.8	83.6	86.0	85.9	83.5	88.7	89.9	86.5	86.5	87.9	86.1
5	84.8	80.4	84.9	80.3	79.2	84.2	84.3	84.3	82.3	80.6	82.7
6	85.5	83.4	86.1	84.9	83.9	86.8	86.5	85.8	84.9	85.5	85.3
7	86.3	87.2	88.6	86.2	85.6	88.0	88.1	87.6	86.6	86.7	87.0

○共通教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した(第1図)。



授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある
	2	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある
	3	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた

第1図 共通教科全体において、肯定的な回答をした割合

○共通教科全体において、すべての共通小項目で、肯定的な回答をした割合が前年度を越えており、コロナ禍にあっても「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した各学校における日頃の教育活動の成果の現れであるといえる。

○共通教科全体において、共通小項目「2 単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」と「5 他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」が、前年度に引き続き、他の項目と比較すると低くなっていることが分かる。このことから、各学校においては、生徒一人ひとりが、授業の中で他者の考えを知り、自分の考えを広げ深めることができるように、より積極的に活動内容を工夫しながら「対話的な学び」を推進していくことが必要である。

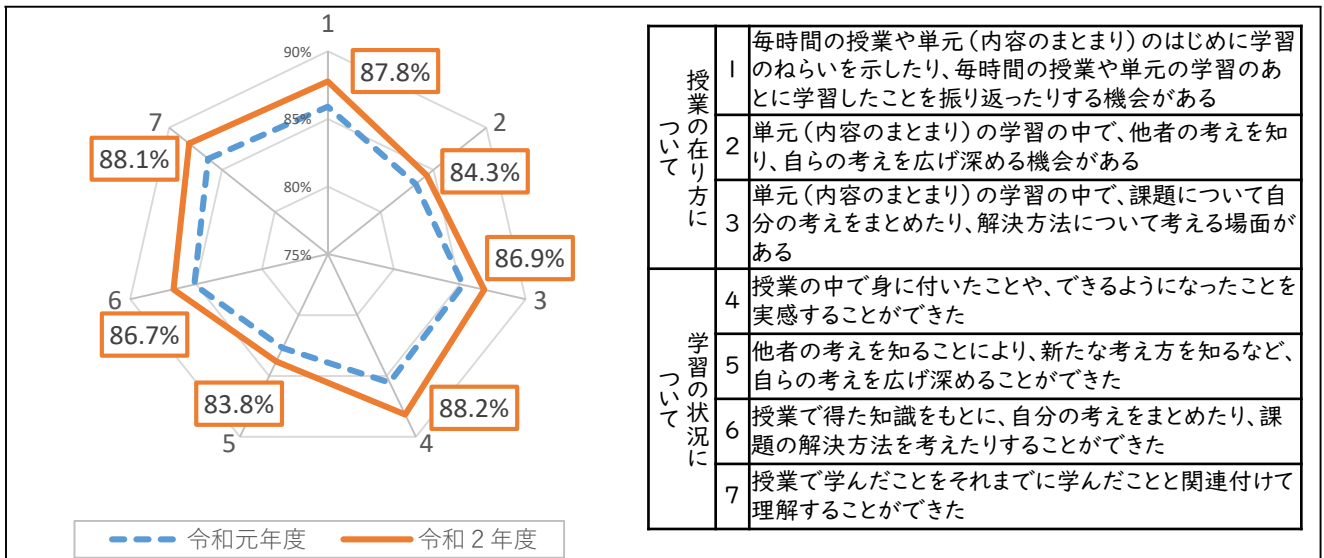
(2) 専門教科について

○各教科及び全体について、肯定的な回答（評価「4 かなり当てはまる」又は「3 ほぼ当てはまる」）をした割合を、共通小項目ごとに示した（第5表）。

第5表 専門教科の集計結果（単位は%、小数第2位を四捨五入）

共通小項目	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	理数	体育	音楽	美術	英語	全体
1	89.0	87.5	83.5	89.9	89.5	96.8	82.8	92.7	88.9	92.9	91.7	89.2	85.8	87.8
2	83.7	85.2	77.5	85.8	86.0	95.4	72.9	89.7	85.7	91.8	89.1	89.3	83.9	84.3
3	87.0	86.0	83.9	89.0	87.4	97.5	84.6	92.2	87.2	92.9	91.0	90.8	85.9	86.9
4	89.0	86.7	86.1	89.7	90.4	98.4	87.3	91.0	88.3	93.6	94.2	92.1	87.6	88.2
5	83.8	83.7	77.9	84.3	85.6	97.1	78.9	89.3	85.9	91.1	89.1	89.7	82.6	83.8
6	87.1	85.7	83.9	87.9	87.6	97.8	84.6	91.9	86.0	92.3	90.4	91.8	85.7	86.7
7	88.5	87.1	85.4	89.9	91.0	97.5	87.5	92.0	87.1	92.8	92.9	91.8	86.9	88.1

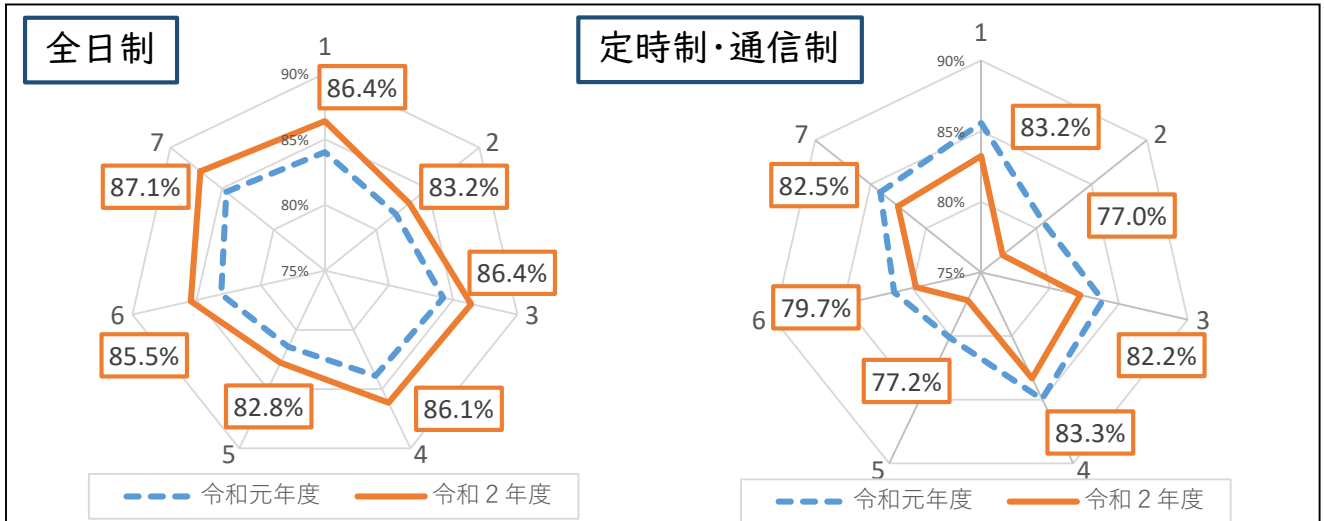
○専門教科全体について、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した（第2図）。



第2図 専門教科全体において、肯定的な回答をした割合

(3) 全日制課程及び定時制・通信制課程について

○全日制課程と定時制・通信制課程の共通教科全体において、肯定的な回答をした割合を、共通小項目ごとにレーダーチャートで示した（第3図）。



第3図 共通教科全体（課程別）において、肯定的な回答をした割合

3 「生徒による授業評価」に関わる取組、授業改善に向けた取組など

(1) 「生徒による授業評価」の活用

「生徒による授業評価」をどのようにいかしているかについて、各学校から次のような回答があった。

- 学校独自の小項目（生徒に身に付けさせたい力）の達成状況を分析し、授業を見直すとともに、生徒が授業への取組を振り返るきっかけとしている。
- 生徒から授業の改善点、要望や授業の雰囲気などの意見を聞くことで、授業改善を図った。例えば、グループで考える時間を増やしてほしいと意見があったため、授業の時間配分の見直しなどを行った。
- 経年変化も踏まえ、教員各自が授業改善の一つの指標としている。
- 評価の高い科目の授業見学等を実施している。
- 各教科担当者がそれぞれ客観的にデータを分析し、生徒に対してフィードバックするだけでなく、教科・学年・学校全体においても議論し、学校全体の授業改善にいかす。

(2) 「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法

「生徒による授業評価」に関する課題やその解決方法について、各学校から次のような回答があった。

- Googleフォームを活用して「生徒による授業評価」を実施したことで、集計が簡単になったが、授業外での回答となるため生徒全員からの回答が得られにくかった。そのため後日LHRの時間に回答してもらい、ほぼ全員の回答を得ることができた。
- 集計・分析が煩雑で時間がかかっていたため、今年度はGoogleフォームによる回答を行った結果、時間短縮ができた。
- 共通小項目の質問内容を理解しにくいと感じている生徒もいる。例示をするなど、質問内容の補足説明をすることで対応していく必要がある。

(3) 「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組

「生徒による授業評価」以外の授業改善に関する取組について、各学校から次のような回答があった。

- ルーブリック評価の研究成果などを取り入れ、定期考査以外にも学びの実態を把握する場面を設けることで授業改善を行えるようにしている。
- 臨時休校中に行った、各教科のオンライン授業を公開し、他の教科の教員と共有することにより、オンライン授業の授業改善も実施している。
- 授業見学週間を設定し、期間内は自由に互いの授業を見学できるようにしている。研究授業のように決まった時間での実施ではないので、日程が合わないの見学ができないということがない。また、他教科の授業なども見学がしやすい。
- 前後期にそれぞれ授業見学期間を設け、お互いに気づきを教科会で伝えている。また、研究授業等などで動画を録画し、指導案をもとに振り返りを行ったり、年度末に授業改善のための、全体会を行ったりしている。
- ICTの利活用について研修を行い、思考力・判断力・表現力を養えるような授業づくりに取り組んでいる。

4 「生徒による授業評価」のよりよい活用のために

- 生徒の確かな学力を向上させるためには、「組織的な授業改善」の推進が重要である。そのための一つの方策として、「生徒による授業評価」の活用があげられる。本報告書で示した集計・分析の結果や各学校の取組を参考にして、各学校の実態に即した授業評価を行い、「組織的な授業改善」にいかしていただければ幸いである。